10. 東部沿岸　青谷海岸

10.1 概要

青谷海岸は、西の尾後鼻岬、東の長尾鼻岬の間に位置する。中央には勝部川があり当海岸の土砂供給に寄与し、明神崎、丸山崎が土砂移動を制約している。既往のトレーサー調査により、土砂移動は長和瀬漁港、夏泊漁港のそれぞれ手前側までと考えられており、この間を一つのポケットビーチと考えることができる。

近年、漁港の整備に伴い，遮蔽域への土砂の引き込みが顕著となっており、海岸域では汀線が後退している。平成 26 年度の冬季風浪では、「鳴り砂の浜」で有名な、井手ヶ浜に大きな浜崖が生じ、現在、対策のため、基礎調査および試行的な養浜等を実施しているところである。

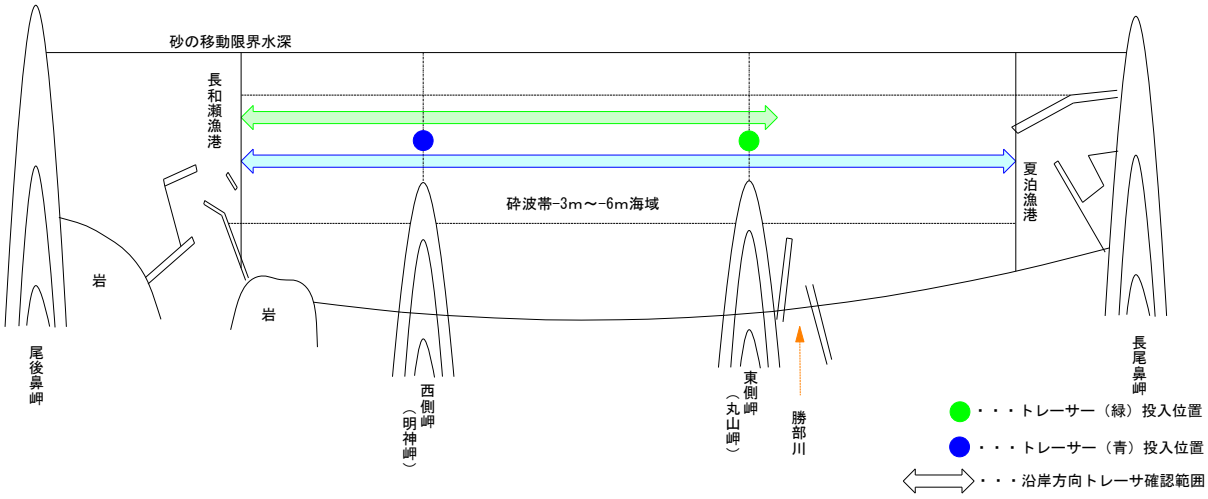


図 10.1.1　トレーサー調査による土砂移動範囲

出典：青谷海岸外海岸調査「トレーサー調査委託」　平成 29 年 3 月　アサヒコンサルタント(株)

図 10.1.2　井手ヶ浜で発生した侵食による被災状況

10.2 対策実施状況

10.2.1 施設整備状況

・勝部川河口導流堤整備　昭和 40 年代

10.2.2 土砂投入量実績

平成 20 年以降の土砂投入は、以下のとおりである.

図 10.2.1　青谷海岸におけるサンドリサイクル

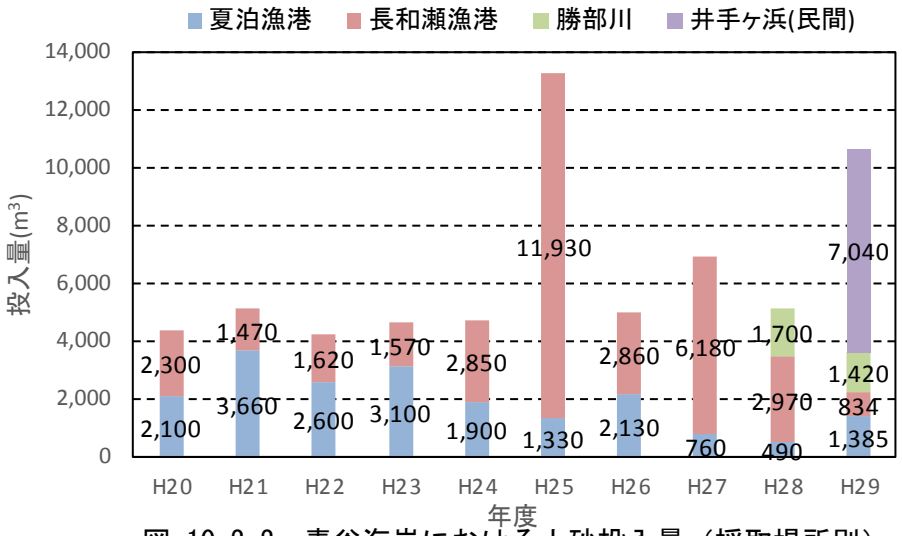


図 10.2.2　青谷海岸における土砂投入量（採取場所別）

当海岸の井手ヶ浜は『鳴り砂の浜』として有名であることから、侵食対策については「質」の観点から、養浜土砂を決定する必要がある。以下の調査を実施した上で、平成28年度から試行的に勝部川河口の砂を利用して養浜を実施しているところである。

【現在の井手ヶ浜「鳴り砂」への対応状況】

① 周辺海岸、周辺漁港の「砂の特性調査（鳴り砂の特性把握）」の実施

粒径調査、強熱減量試験、鉱物組成試験を実施（H27実施）

② 漂砂方向の調査の実施

蛍光砂による漂砂調査の実施。（H27・H28実施）

③ 養浜の試行

関係機関・地元の合意の元、井手ヶ浜海岸に試行的に陸上養浜を実施（H28.6）

図 10.2.3　井手ヶ浜の養浜状況

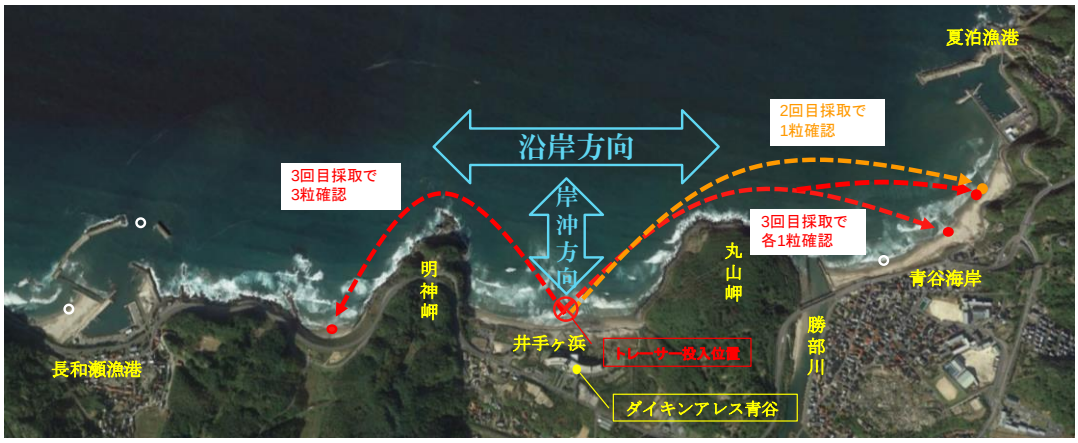


図 10.2.4　井手ヶ浜の蛍光砂調査による漂砂移動状況(Google 平成26年10月30日撮影)

10.3 評価分析

10.3.1 汀線変化分析

空中写真（鳥取県立博物館）及び汀線測量データ（平成 16 年基準）により、青谷海岸の汀線変化を分析した。

【近年の汀線変化傾向】

（長期汀線測量による分析）

- 平成 16 年基準で見ると、平成 27 年 8 月に井手ヶ浜（No.20～No.22）、青谷海岸東側（No.39～No.41）で小規模な侵食傾向が確認される。以降、季別に関わりなく侵食傾向が続いている。(コメント①)
- 平成 28 年は井手ヶ浜の東側（No.18～No.24）で、侵食傾向が確認される。以降、季別に関わりなく侵食傾向が続いている。(コメント②)

（短期汀線測量による分析）

- 平成 29 年 3 月は No.21~No.22 において 30m 程度、平成 30 年 3 月は No.24 において 30m 程度、いずれも後退している。季別に関わりなく、部分的な侵食が生じる傾向がある。(コメント③)

（空中写真による分析）

- 平成 15 年以降は，西側（井手ヶ浜）で最大 20m 程度の前進，東側（青谷海岸）が最大 50m 程度の侵食傾向となっている．全体的には平均 20m 程度の侵食となっている。(表 7.3.2)

図 10.3.1　現地写真（H30.9.22 撮影）

図 10.3.2　現地写真撮影地点

図 10.3.3　上空からの斜め写真

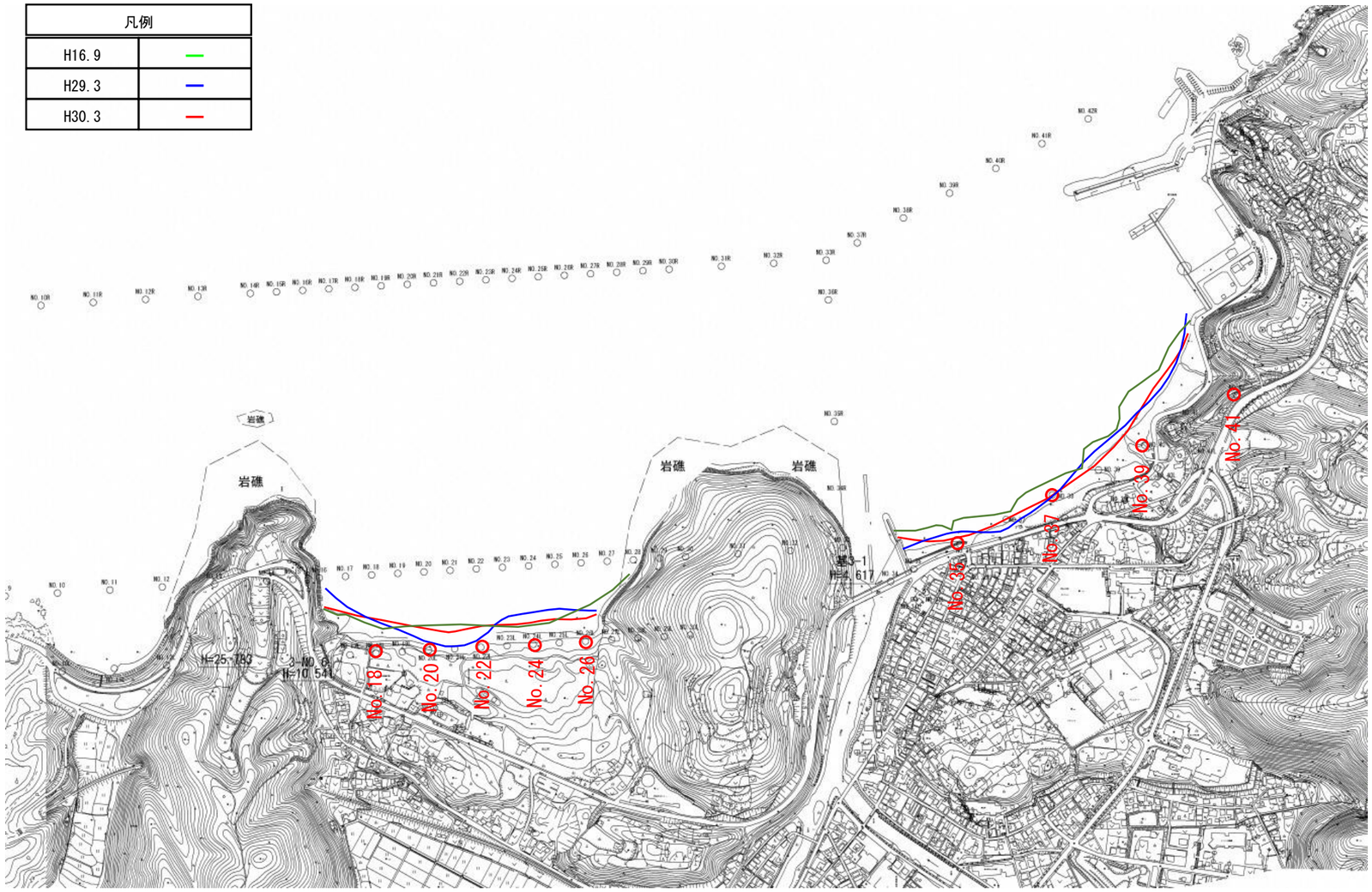


図 10.3.4　青谷海岸の近年の汀線図(H18.3～H29.3)

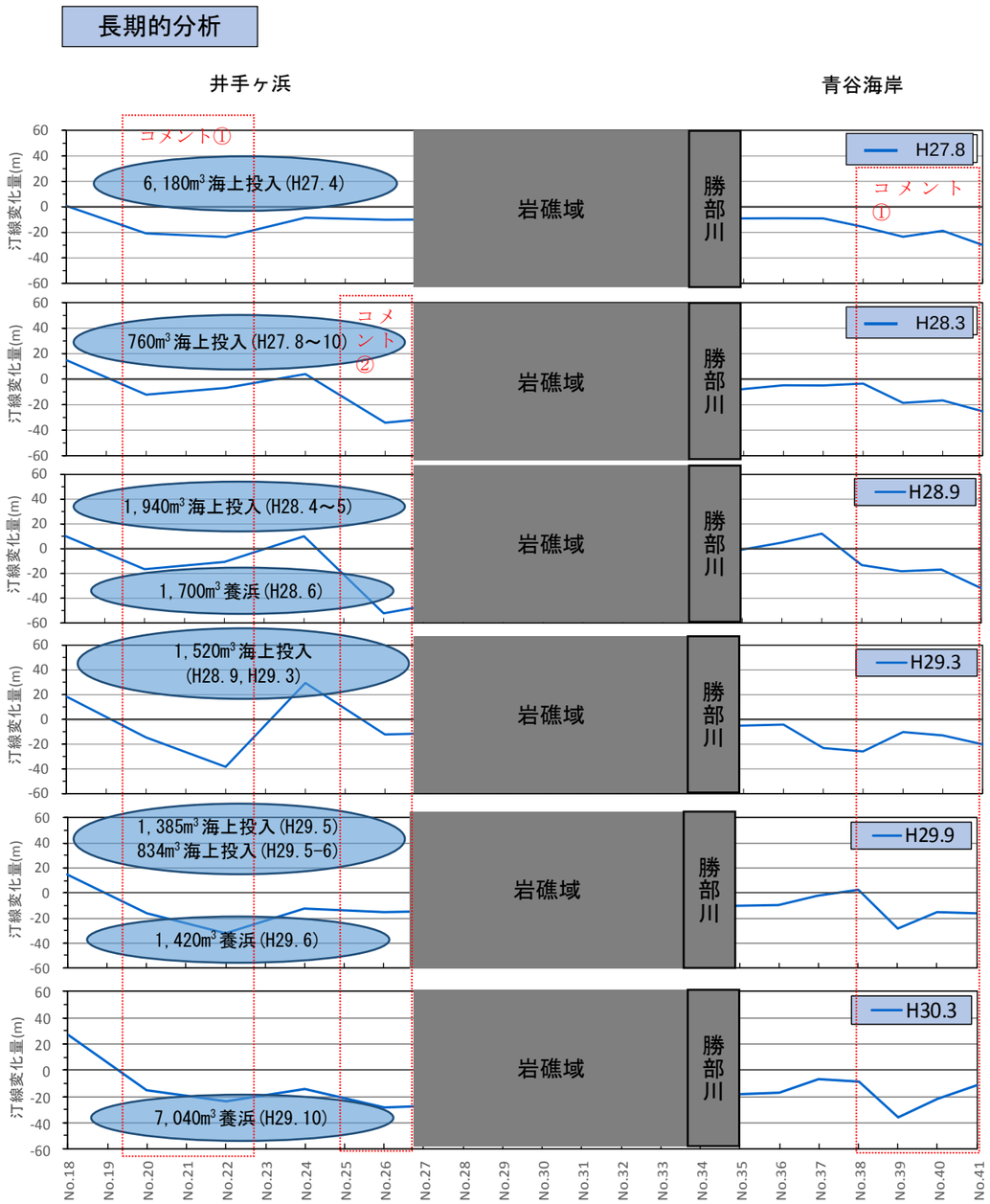


図 10.3.5　青谷海岸の汀線変化状況図(平成 16 年 9 月測量基準・長期)

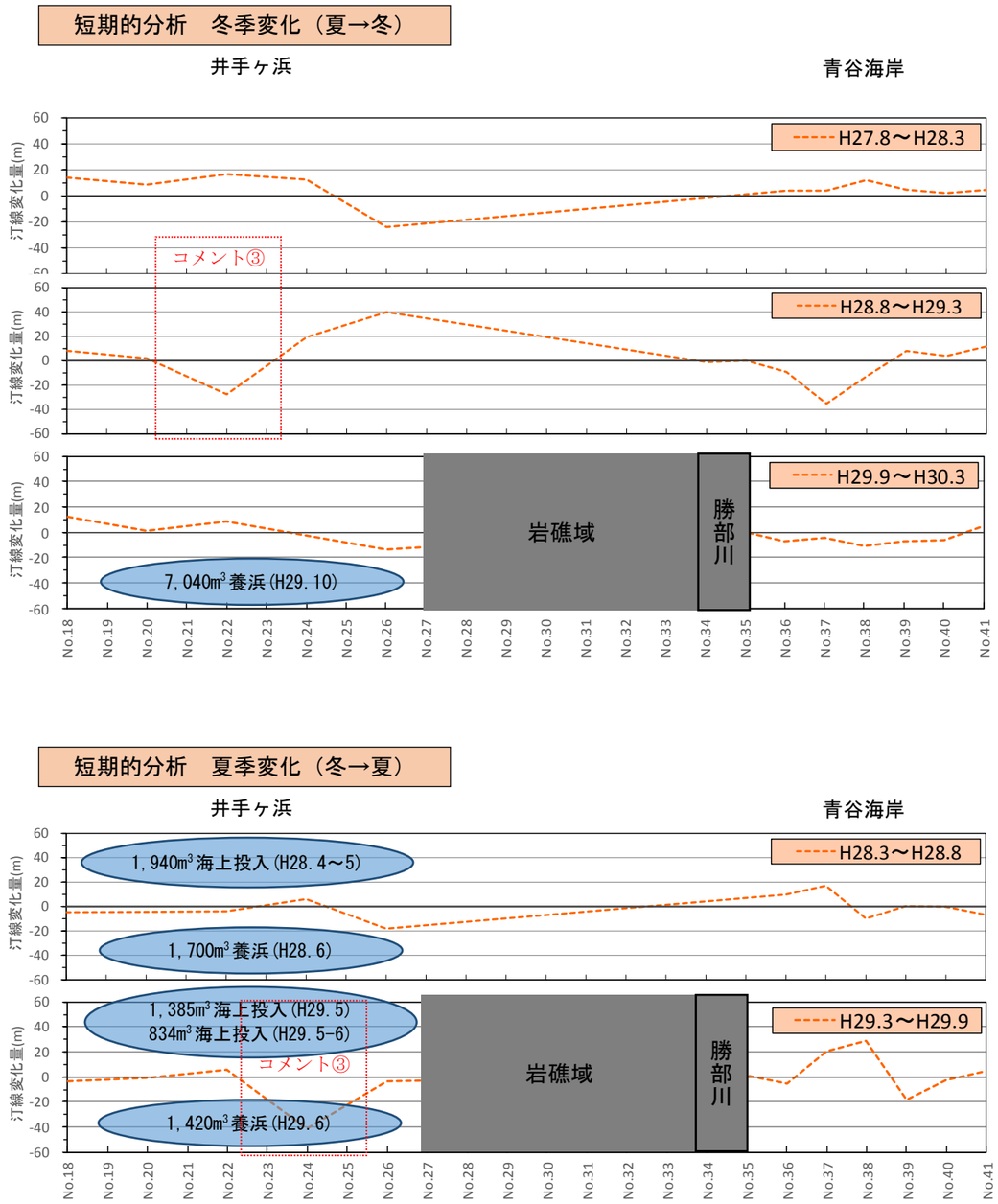


図 10.3.6　青谷海岸の汀線変化状況図（半年前基準・短期）

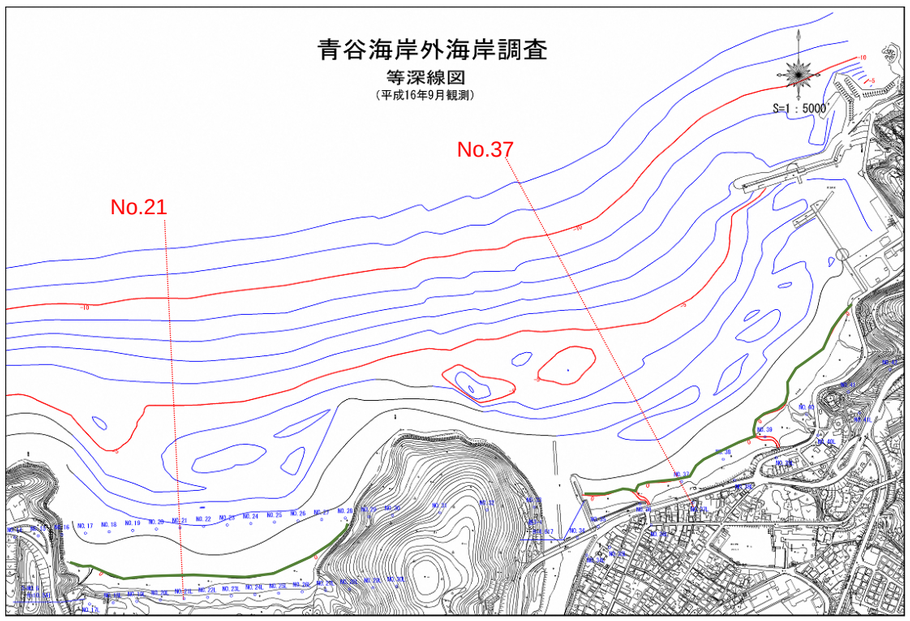


図 10.3.7　等深線図（平成 16 年 9 月）

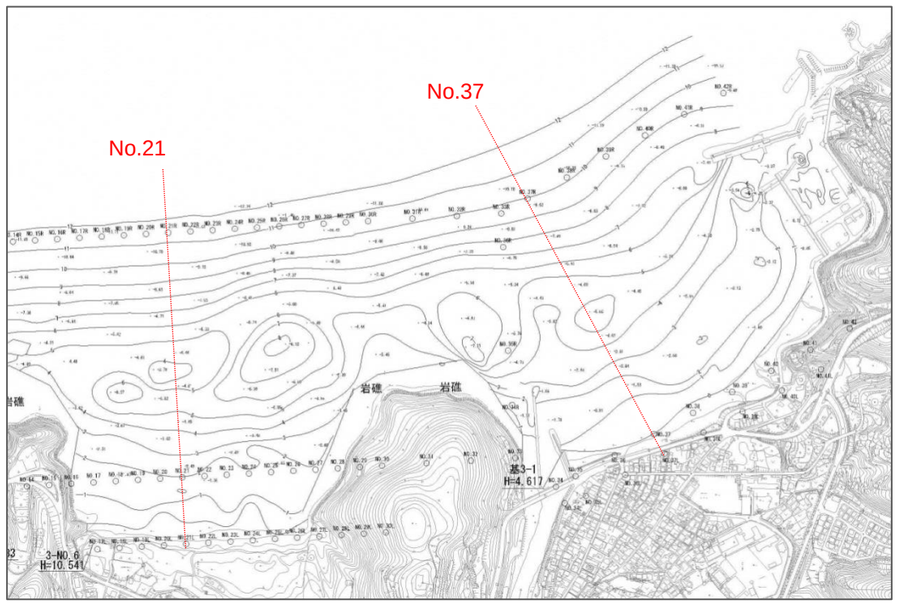


図 10.3.8　等深線図（平成 29 年 9 月）

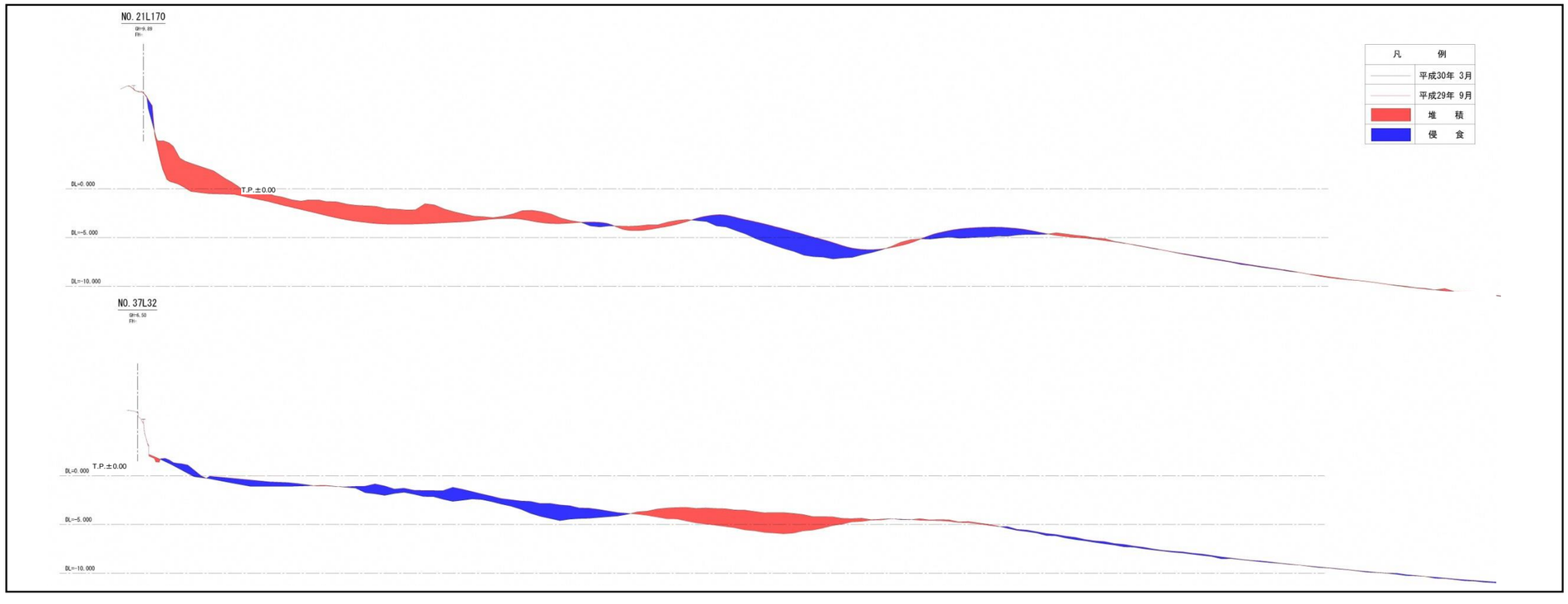
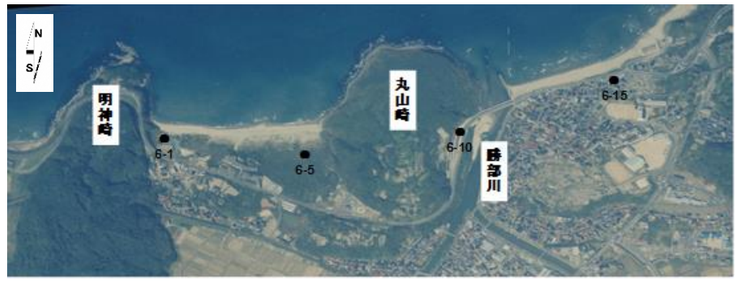
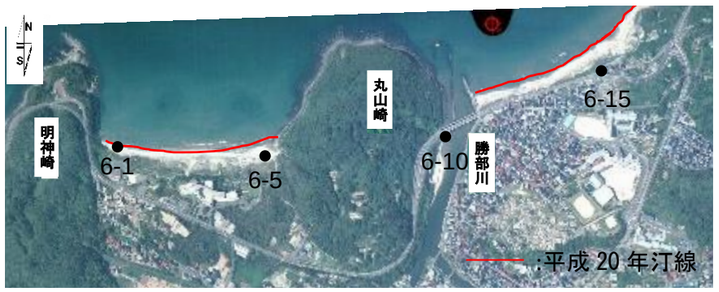


図 10.3.9　深浅横断比較図（No.21、No.37）（平成 29 年 9 月と平成 30 年 3 月測量の比較）

表 10.3.1　空中写真による汀線変化の整理表：青谷海岸

	空中写真
平成15年（2003）	
平成20年（2008）	
平成25年（2013）	

10.4 問題点および今後の方針

- 近年は冬季風浪のたびに浜崖が発生しており、引き続き注視が必要。平成 28 年度も井手ヶ浜中央部付近の侵食が発生しており、状況を注視していく必要がある。
- 当海岸は「鳴り砂」という特性があり、慎重な対応を求められるところではあるが、科学的な見地を整理し、井手ヶ浜への土砂投入量を増加していきたい。
- 平成 29 年度は、追加で約 7,000m^3（民間提供）の陸上養浜を実施したため、その効果についても注視していく必要がある。